

令和7年産 小麦技術情報No.4

令和7年4月25日
巻農業普及指導センター

～防除と追肥のポイント～

- 赤かび病発生防止のため、3回防除を徹底しましょう。
- 製パン用強力粉の原料小麦としてタンパク質含率を高めるため、穂揃期追肥は必ず実施しましょう。
- ※ 出穂状況を把握し、適期に防除と追肥を実施しましょう。

参考：向こう1か月の平均気温は高い確率が60%、特に、5/3～9はかなり高くなる見込みです。降水量、日照時間は平年並の見込みです。（4月24日新潟地方気象台発表）。

1 生育調査ほの生育状況

【4月23日調査】

	品種	播種日	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	予想出穂期
南区小坂	夏黄金	10/25	64	503	44.9	5月3日
西蒲区横戸	夏黄金	10/22	63	456	41.6	4月30日
西蒲区下山	ゆきはるか	10/27	50	312	42.9	5月3日
西蒲区真木	※ゆきはな六条	10/6	78 (稈長)	570	50.3	4月20日

※大麦の「ゆきはな六条」は参考値

◎夏黄金（小麦）の管内の平均は、過去2年間の平均と比べて草丈94%、莖数は123%、葉色は-3.2となっています。小麦は今月末～来月初旬にかけて出穂期を迎える見込みですので、赤かび防除の徹底とパン用小麦の穂揃い期追肥を適期に実施してください。

2 穂揃期追肥 【注意】薄力粉用の「ゆきはるか」と大麦は必要無し

【穂揃期追肥のめやす】

施用時期	出穂期3～10日後 (全有効莖の8割以上の穂が抽出した時期)
施用量	窒素成分4～6kg/10a

【穂揃期追肥の効果】

製パン用強力粉の原料として小麦栽培を行う場合、タンパク質含有率を高めるために重要な追肥です。

パン用小麦の品質評価基準のタンパク質含有率基準値(11.5～14.0%)を安定して満たすことで、食パンの膨らみが良好となり、柔らかく仕上がります。

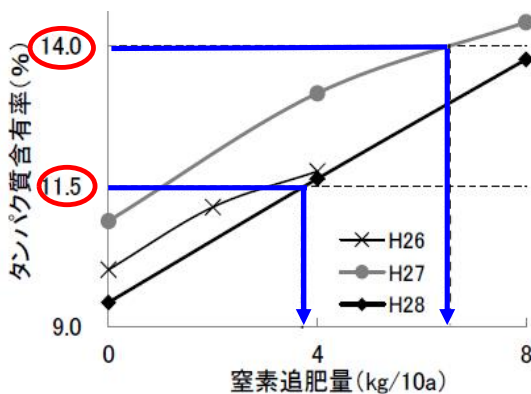


図1 穂揃期追肥量の違いによる子実タンパク質含有率の推移(ゆきちから、新潟作物研)



追肥量0kg/10a 追肥量4kg/10a 追肥量8kg/10a
比容積4.0ml/g 比容積4.3ml/g 比容積4.6ml/g

図2 穂揃期追肥量の違いによる食パン断面と比容積(ゆきちから、H28、新潟食品研)

3 赤かび病防除

- ・農産物検査基準では、赤かび粒の混入限度が0.0%と定められています。
- ・また、食品衛生法では、赤かび病のカビ毒(デオキシニバレノール)が基準値超過になると流通できず廃棄処分になります(令和5年度に赤かび病に罹病した小麦が流通し問題となりました。改めて防除の徹底とほ場での発生状況確認等、赤かび病の除去の徹底が求められています)。
- ・適期防除の徹底により、赤かび病の発生を抑えましょう！

- 赤かび病は、開花期～乳熟期に穂に感染し、減収と品質低下を引き起こします。出穂～乳熟期に雨が多く、気温が高い年に発生が多くなる傾向です。今年は出穂後の気温が高くなる予報ですので、注意してください。
- 「ゆきちから」は赤かび病に弱い品種なので、3回の防除を徹底しましょう。
- 「夏黄金」「ゆきはるか」は赤かび病耐病性は中ですが、3回の防除を実施しましょう。

【赤かび病の防除のめやす】

	防除適期	《参考》大麦
1回目	開花期(出穂期の7～10日後頃)	(出穂期の4～7日後頃)
2回目	1回目の7～10日後	1回目の7～10日後
3回目	2回目の7～10日後	

※ 農薬の使用にあたっては、登録内容を確認して適正に使用して下さい。

赤かび病の病斑



《ほ場巡回による物理的対策》

- ・出穂後はほ場を随時見回り、変色穂の抜き取りを実施しましょう。
- ・変色穂が比較的多いほ場(赤かび病の発生若しくは発生が疑われる場合)は、他ほ場との刈り分けを基本にし、普及センター等に連絡してください。

【パン用小麦の赤かび病防除薬剤と窒素肥料の混合液散布】

- 小麦の開花期(出穂7～10日後)に窒素肥料溶液と赤かび病防除薬剤を混合し、葉面散布することで作業の省力化を図ることができます。
- 開花期の葉面散布は、穂揃期に粒状尿素肥料を散布する手法と同等の収量、容積重、タンパク質含有率及び灰分を確保できます。

《混合液の作り方》

- (1) 10アール当たり窒素成分4～6kg相当の尿素肥料を、使用する赤かび病防除用殺菌剤の登録範囲内の水量で溶かします。
- (2) 尿素肥料水溶液に、所定量の殺菌剤を加えて均一になるまで攪拌します。
- (3) 追肥4～6kgの尿素を赤かび防除の1回目と2回目の2回に分けて施用すると葉焼けを軽減できます。

【留意点】 ・ 散布液の窒素濃度が高いほど止葉の葉焼けが進展しますが、生育と収量に影響はありません(写真)。

- ・ 赤かび病防除薬剤の注意事項を遵守するとともに、尿素溶液との混合に対する知見がない薬剤は使用を避ける。



止葉の葉焼症状

注) 水量150Lに窒素6kg(尿素約13kg)を溶かした溶液による症状